

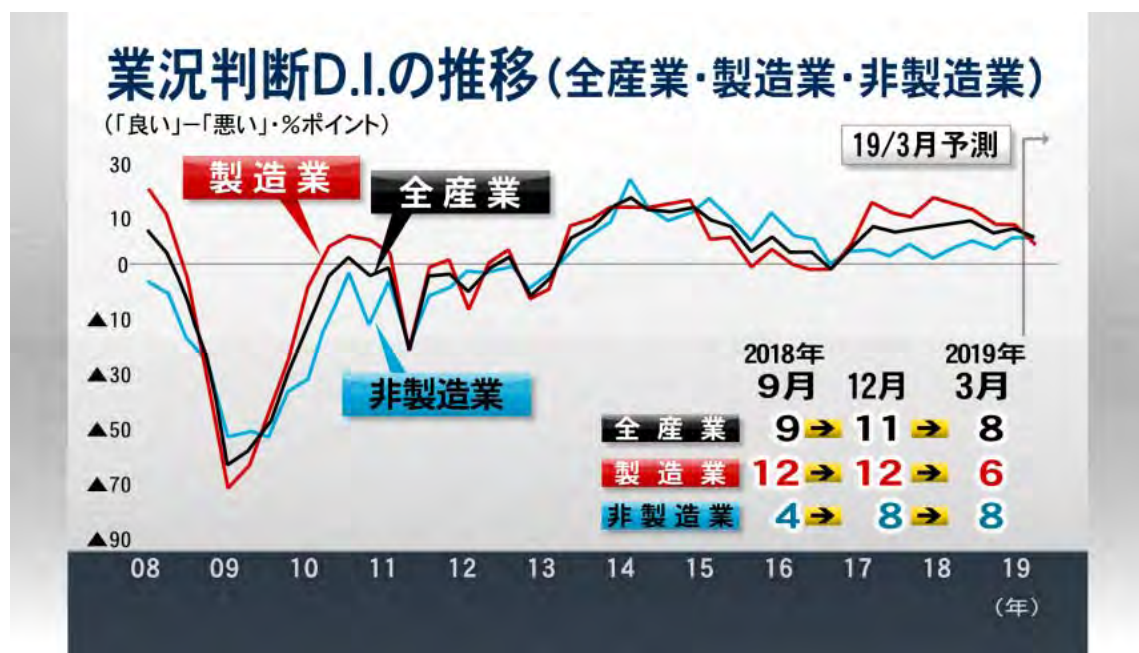
[番組名]群馬テレビ「ビジネスジャーナル」

[放送日]2018年12月21日

[テーマ]日銀短観でみる県内経済の足取り

(キャスター) 毎回、コメンテータの方に専門分野のお話をうかがう『プラスオピニオン』です。改めてご紹介します。日本銀行前橋支店長の岡山和裕さんです。よろしくお祈いします。今回は、『日銀短観でみる県内経済の足取り』というテーマでお話をうかがっていきます。お話を祈いします。

(岡山支店長) よろしくお祈いします。日本銀行では、12月14日に「企業短期経済観測調査」——いわゆる日銀短観——を公表しました。本日は日銀短観から読み取れる、県内経済の足取りについてご説明したいと思います。まずは業況判断D.I.の推移をご覧下さい。



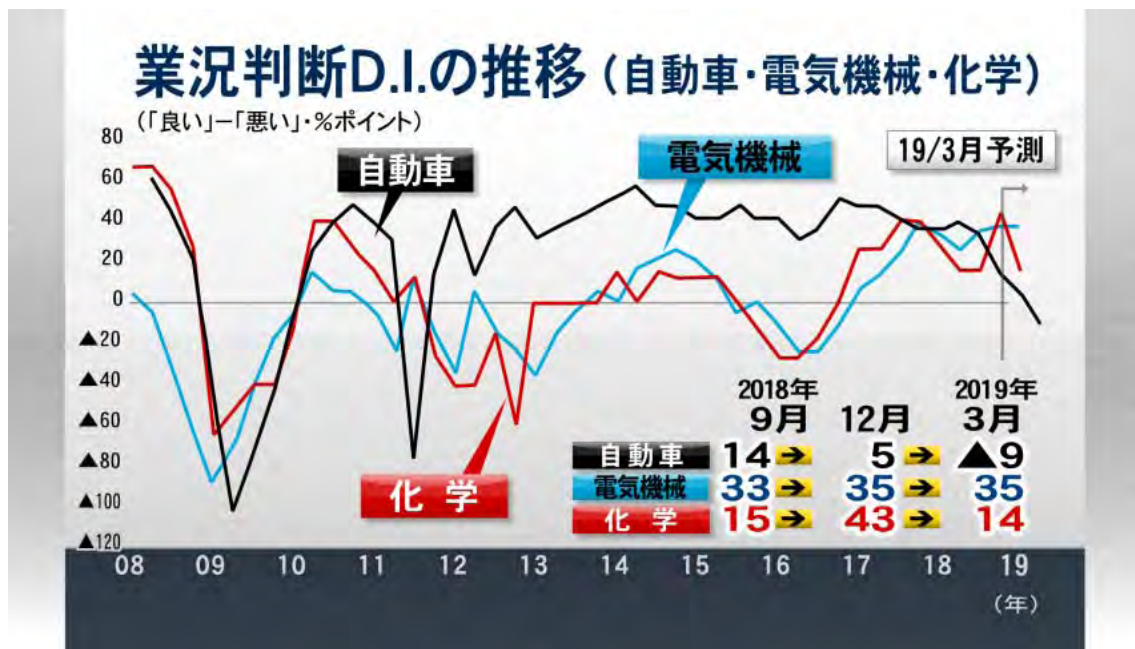
(岡山支店長) 業況判断 D.I. は、景気が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値です。「良い」と答えた企業が「悪い」と答えた企業よりも多ければ数値はプラス、少なければマイナスとなります。

群馬県の全産業の業況判断 D.I. は、前回のプラス 9 から 2 ポイント改善し、今回はプラス 11 となりました。2 期ぶりの改善となり、県内景気の回復が続いていることを示しています。先行きはプラス 8 と悪化しておりますが、引き続きプラスの水準を維持しています。

(岡山支店長) 業況判断 D. I. を製造業と非製造業に分けてみますと、製造業は、プラス12と前回から横ばいとなりましたが、先行きについては、プラス6と悪化する見通しとなっています。一方、非製造業は、前回のプラス4から、今回はプラス8と改善しました。先行きについては、横ばいの見通しとなっています。

(キャスター) 製造業の業況については、どのような動きがみられたのでしょうか。

(岡山支店長) 次のフリップで、群馬県の製造業のいくつかの業種の D. I. をみていきましょう。

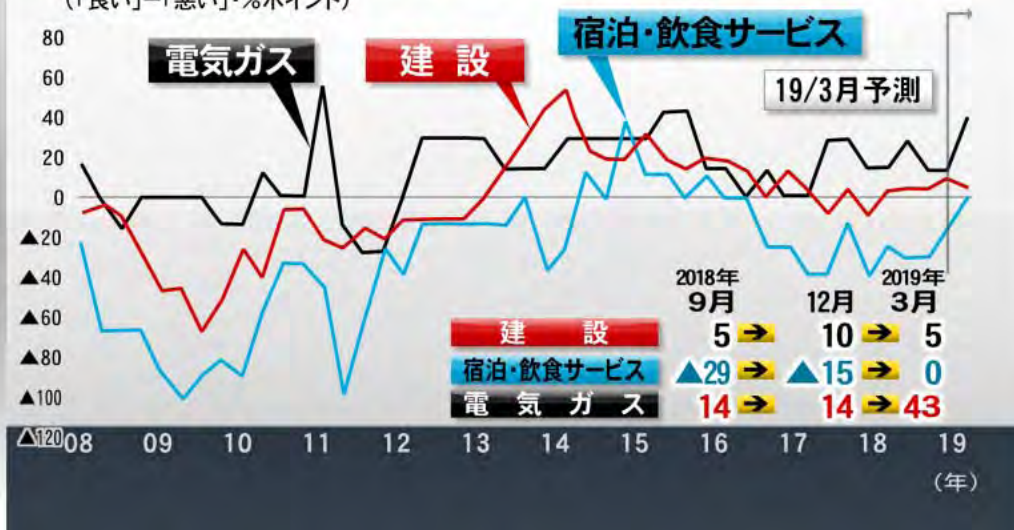


(岡山支店長) 今回調査では、自動車や鉄鋼、はん用機械などの業況判断 D. I. が悪化した一方、電気機械や化学が改善しました。悪化した背景については、自動車関連の減産や中国向け需要の鈍化という声が聞かれました。一方、改善した背景については、建設機械向け部品の好調やコスト上昇分の販売価格への転嫁という声が聞かれました。先行きについては、貿易摩擦の影響を受け、中国向け需要が減少するとか、在庫調整の見込みといった声が聞かれ、やや不透明感が窺われています。

(キャスター) 一方で、非製造業の業況改善の背景には、どのような事が影響しているのでしょうか。

業況判断D.I.の推移 (建設、宿泊・飲食サービス、電気・ガス)

(「良い」-「悪い」・%ポイント)



(岡山支店長) 非製造業については、足もと、建設、卸売、宿泊・飲食サービスが改善しています。改善した背景については、民間工事の受注や首都圏再開発・オリンピック需要が増加したといった声が聞かれています。先行きについては改善と悪化が拮抗しています。改善では、工場増加に伴う需要の増加、宿泊におけるインバウンド需要の増加、悪化では、建設、卸売、運輸などで人手不足で人件費増加しているとう声が聞かれています。

(キャスター) 次に、県内企業の売上や収益の計画は、どのようになっていますか。

売上高・収益計画 (2018年度)

前年度比・%

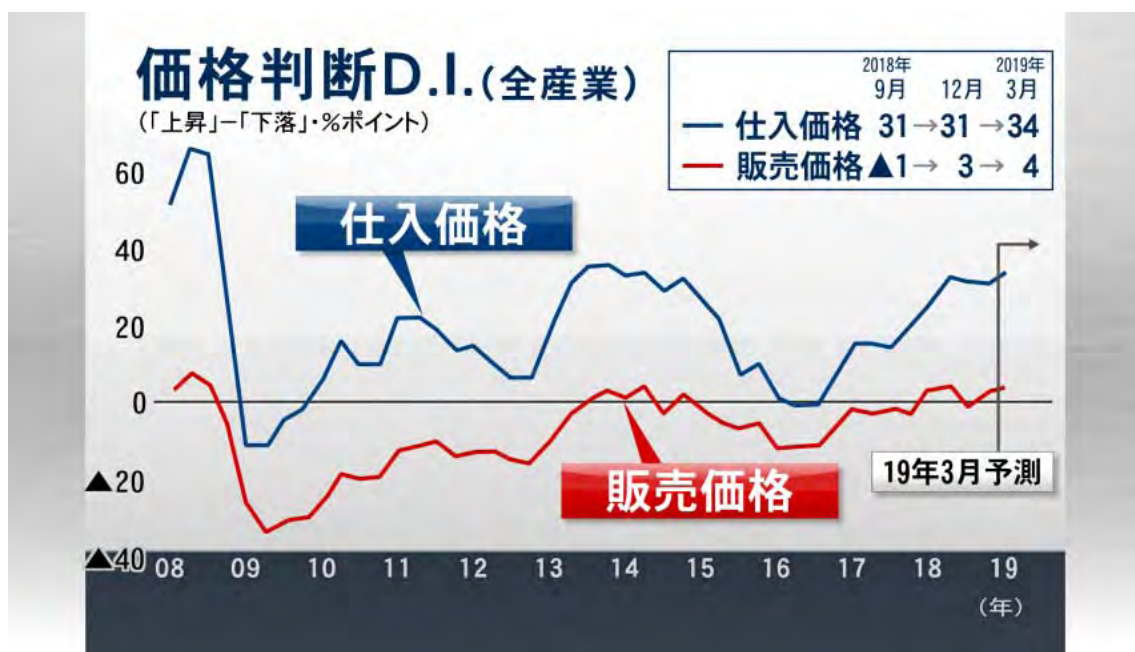
	売上高	経常利益
全産業	2.3	▲2.0
製造業	1.2	7.9
非製造業	3.9	▲11.1

(岡山支店長) 事業計画をみますと、2018年度は増収減益となっています。製造業と非製造業に分けますと、製造業は増収増益となっておりますが、非製造業は増収減益の計画となっています。

製造業は、電気機械や化学などが需要好調であるほか、自動車関連を中心に為替円安を受けて輸出額が増加したことにより上方修正となっています。

一方、非製造業では、卸小売、不動産などの売上が好調であるものの、人手不足による人件費増加や、配送料の値上げといったコスト増加により増収減益となっています。

(キャスター) 企業は仕入価格、販売価格をどのように見えていますか。



(岡山支店長) 企業の仕入価格判断D.I.はプラスになっていますが、これは、「下落」と答えた企業よりも「上昇」と答えた企業の方が多いということです。

仕入価格のD.I.は足もと横ばいとなりましたが、先行きは上昇超幅の拡大が見込まれています。販売価格は足もと上昇超に転じ、先行きは上昇超幅の小幅拡大が見込まれています。

販売価格については、製造業において、依然取引先からのコストダウン要請が厳しいといった声が聞かれている一方で、高付加価値商品で値上げに成功しているとの声が聞かれています。

(キャスター) 設備投資の計画については、どのようになっていますか。

設備投資計画			前年度比・%
	2017 年度 実績	2018 年度 計画	前回調査比 修正率
全産業	▲2.6	3.5	▲3.0
製造業	▲1.1	2.1	▲3.1
非製造業	▲8.8	9.4	▲2.2

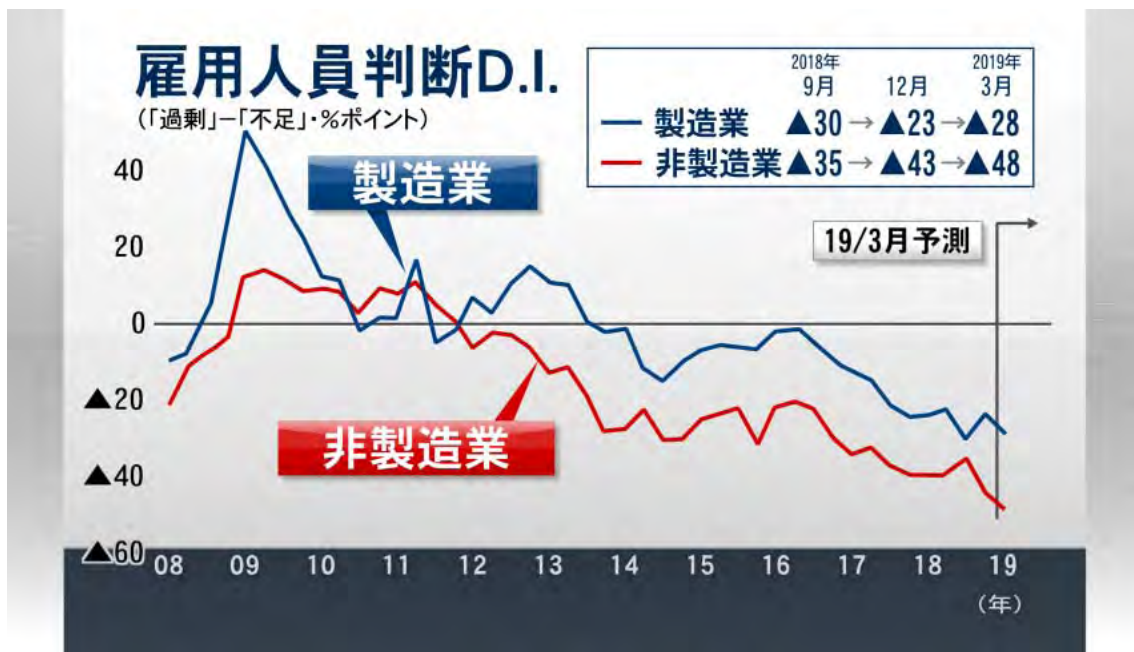
(岡山支店長) 県内企業の設備投資計画をみますと、2017年度は減少でしたが、2018年度は前年比+3.5%のプラスとなっております。製造業は+2.1%、非製造業は+9.4%となっております。

このように、2018年度の設備投資は、最近の景気回復を受けて、能力増強投資、環境投資、新規出店などに前向きとなっております。

もともと、貿易摩擦による中国向け部品需要の減少や在庫増加を受けた能力増強投資の取り止めといった慎重な声も聞かれており、前回調査比では下方修正となっている点には留意が必要です。

(キャスター) かわって人手不足感は、強まっているのでしょうか。

(岡山支店長) まずは、次のフリップをご覧ください。



(岡山支店長) 雇用人員判断 D. I. は、マイナスとなっておりまして、「不足」と答えた企業が「過剰」と答える企業よりも多いことを表しております。

今回調査では、足許の不足超幅は横ばいですが、先行きは拡大しており、人手不足感が強いほか、今後も緩和しそうにないという状況のようです。とりわけ労働集約的な非製造業の人手不足が一段と拡大していることが特徴です。

新卒採用計画

前年度比・%

	2017年度 実績	2018年度 計画	2019年度 計画
全産業	2.2	3.5	4.7
製造業	3.2	2.4	6.1
非製造業	0.6	5.2	2.4

(岡山支店長) こうした中、新卒採用については、2017年度は前年を上回ったほか、2018年度、2019年度とも前年比増加計画となっています。人手不足感が依然強いことを受けて、企業の採用スタンスは積極的であることが改めて確認できました。

(キャスター) おしまいに、今回の短観結果のポイントを教えてください。

(岡山支店長) 要約すると、次の3点です。

1点目は、景況感は小幅ではありますが2期振りに改善したほか、企業の売上は引き続き増収計画となっています。設備投資も増加を維持しています。このため、「県内景気は回復している」との判断は維持しております。

2点目ですが、もっとも、今回の短観では、足もと先行きとも貿易摩擦の影響を指摘する声が増えてきたことが特徴です。さらに、先行きの景況感の悪化は、これに加えて、中国向け需要の減少や在庫調整を見込むといった声も聞かれているため、今後の動向を注意深く見ていきたいと思えます。

3点目は、人手不足が一段と進んでおりまして、これが供給制約となり、企業活動の阻害要因にならないかといった点に注目しています。この点については、労働生産性向上のための設備投資や企業の採用状況、賃金設定スタンスなどについてしっかり見ていきたいと思えます。

(キャスター) 今後の県内経済の動きに注目です。

今回の「プラスオピニオン」は「日銀短観でみる県内経済の足取り」をテーマに、日本銀行前橋支店長の岡山和裕さんにお話をうかがいました。ありがとうございます。

以 上